

(2)

発信型図書館を
目指して

クリックすれば「世界」が開く

本学図書館のオリジナル 主題別書誌データベース

Books on Japan in European Languages

NIPPONALIA (ニッポナリア)

ヨーロッパ言語による日本研究資料のコレクション。古くは安土桃山時代のイエズス会宣教師ルイス・フロイスの自筆書簡から、江戸時代に来日したドイツ人シーボルトの大著『日本』、さらには現代の「ジャパノロジー」といわれている研究の成果までを多数所蔵しています。欧米の人々から見た日本と日本人研究書の宝庫です。

Il Giappone e il viaggio della corvetta Magenta nel 1866. (『日本と1866年のマゼンタ号の航海』) もここに収録されています。



この主題別書誌データベースは現在58種類あり、
年々増加しています。

あなたの学習と研究にあわせてお使い下さい。

がらも、アルミニオンが望んだ対日交渉に精通した通訳官の派遣に対してメルメ・カション (Mermet de Cachon, 1828-1871?) を推薦します。これは、かつてプロシアが、アメリカ公使館に要請してヘンリックス・ヒュースケン (任務遂行中に暗殺される) の協力を得た前例に倣うもので、ヨーロッパでの日本語の理解状況からして仕方がないことでありました。

■大物通訳官カションの実力

こうしてイタリアの交渉の通訳を担当することになったカションは、パリ外国宣教会の司祭として沖縄に来航し、同地で琉球語を学び、1858 (安政五) 年の日仏通商条約締結の際のグロ全権公使の通訳官として力を発揮します。また、1859 (安政六) 年には三田での公使館の開設や総領事ベルクールの下でこの条約の批准に立ち会います。その後の函館勤務では日本人に

フランス語を教え、弟子たちの中には後に幕閣に名を連ねる人も輩出していました。1863 (文久三) 年に一旦帰国しましたが、1864 (元治元) 年に駐日公使にロッシュが就任すると、彼自身三度目の通訳に起用されていました。それまでの幕府との交渉を通じ、漢字名「和春」として多くの日本人に知人を持ち、在日外交団の中でも極めて著名な人物でした。ただ、交渉事に長けていることや、人脈が広いために日本人から警戒心を持たれている人物でした。⁽²⁾

■アルミニオンの判断

7月8日にアルミニオンはカションと対面して協力を取り付け、カションは幕府にイタリア使節の到着を知らせることを約束します。これ以後、アルミニオンはカションに対し全幅の信頼を寄せることとなります。

翌日、アルミニオンは6月15日に始まってい